



市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和7年夏休み明け号

507-0814 多治見市市之倉町 10-381

TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

今年も引き続き残暑が厳しいようです。子どもたちの様子には十分気を付けて見守り、その子ども達の元気な姿をHPにアップしていく予定です。お時間があるときにご覧いただき、家族の話題の一つとなっただければと思います。

児童と家庭、地域の皆さん、学校職員の笑顔があふれる市之倉小学校となることを願っています。

子供たちの成長と人間力(高校野球より)

校長

保護者の皆様、地域の皆様、夏休み期間中は子供たち見守っていただきありがとうございました。

この夏、子どもたちの水の事故のニュースを多く目にしましたのでその度に心配しておりましたが、おかげさまで現在のところ事故や事件などの連絡はなく、笑顔で夏休み明けの子供たちに対面できそうです。

さて、今年の夏も甲子園では大会期間途中で辞退する学校もあり、負の要素も多く伝えられましたが、グラウンド内での高校球児たちの懸命に白球に食らいつく姿に、多くの感動がありました。私自身、かつて野球部員であり、中学野球の監督を20年近く務めていた経験もあり、選手の姿や監督の様子を見ながら胸を打たれるものがあります。

その中でも準々決勝の岐阜県代表である岐阜県商業高校の戦いは、県内では出歩く人が減ったと言われるほどテレビ中継にくぎ付けになり、そして多くの県民、あるいは全国の高校野球ファンを熱くさせました。結果、延長11回にサヨナラ勝ちという劇的な展開を見せ、全国ニュースでも取り上げられ「高校野球の魅力とは何か」を改めて感じさせるものでした。

また、ある選手は生まれつき左手の指がないというハンディがありながらも、それを乗り越えて堂々としたプレーを見せ、衝撃とともに勇気、希望、感動を与えています。

これらを見るに、「勝ち負け」以上に、選手や関係者の努力、仲間との絆、そして人間的成長の物語が詰まっていると感じます。そして、これは私たちの小学校であっても日々の教育活動につながる部分が多くあります。

野球に限らず、学校生活の中で子供たちが日々小さな“勝負”を繰り返しています。朝起きて学校に向かう準備から始まっているのかもしれませんが。様々な課題や困難をどう乗り越えるのか、自分をどれだけ信じていることができるのか、仲間をどう支え、どう支えられるのか。一すべての場面で子供たちは成長していると言えます。

私たち大人は「結果」ばかりではなく、「努力の過程」にしっかり目を向けなければなりません。結果以上にその頑張りを認め、励ましていくことが大切だと思います。それが子供たちに人としての力を育んでいくのだと考えます。

夏休み明け以降も本校では「みんなでつくる楽しい学校」を目指す教育を大切に、一人ひとりの頑張りを丁寧に見届けていきたいと思っています。引き続きよろしくお願いたします。



追伸 この広報を書き終えた翌日に準決勝が行われました。

この試合も緊張感のある素晴らしいものでした。感動をありがとうございました。